※令和４年度以降入学生用

学校番号	1206

令和５年度　芸術科

教科	芸術	科目	書道Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「書Ⅰ」　（光村図書）						
副教材等	自主教材プリント						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・中学校書写を発展させて、芸術科書道では用具用材の違いによる表現の違い等を学ぶ。
・様々な書体を体験し、自分らしい文字を書くことが出来るようになる。
・身近に飾れる作品を作ることで達成感を味わい、書を愛好する心情を育てる。

２　学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)　書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

(2)　書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。

(3)　主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	・書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	書写と書道書体の変遷	・国語科書写と芸術科書道	a:書写と書道の類似点・相違点 b:基礎基本を踏まえて表現を工夫している ｃ:様々な書のよさを味わっている。	ワークシート 提出作品	提出作品	観察 レポート
	楷書の学習	・古典臨書 ・唐の四大家の書風による違いを学び、表現技術と鑑賞の能力を高める。	a:書風の違いを技術的に書き分けるための工夫と技術を習得している。 b: 楷書について関心を持ち、積極的に表現技法を高めようとしている c:作品鑑賞を通じ、書風と骨格の関係性を考察できる。	ワークシート 提出作品	提出作品	観察 レポート
二学期	行書の学習	・古典臨書を中心に楷書と行書の違いを理解し、その技法を学習する。	a:行書の特徴を理解し、基本点画の習得に努めている。 b:行書について関心を持ち、積極的に表現技法を高めようとしている。 c:各古典の特徴を理解し、自らまとめ説明することができる。	ワークシート提出作品	提出作品	観察 レポート
	漢字仮名交じりの書	・ひらがなと漢字の調和を表現する。	a:墨色について関心を持ち、積極的に表現技法を高めようとしている。 b:ひらがなと漢字の調和を構想し表現できている。 C：ひらがなと漢字の調和された筆使いを身に付け表現している。 c:墨色は黒一色ではないことを理解し、そのよさを味わっている。	ワークシート 提出作品	提出作品	観察 レポート

※令和４年度以降入学生用

三学期	仮名の書	「いろは歌」から古典での連綿を学び、用筆法を習得する。 ひらがな、片仮名の成り立ちを学習する。	a:ひらがなの成り立ちなど、表記に関心を持ち積極的に取り組んでいる。 a:仮名の散らし書きを構想できている。 b:仮名の用筆法を理解し、古典の技法を表現できている。 c:古典の特徴を理解し、自らまとめ説明することができる。	ワークシート 提出作品	提出作品	観察 レポート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度